



# さくらっこ!



戸塚区青少年指導員協議会は



## 目次

P.1…強み・弱みと子どもの成長 / P.2・3…戸塚区内の各地区紹介!  
P.4…第27回 チャレンジフェスティバル チャンピオン記録一覧! / 2022年度 上期行事・2022年度 下期行事予定

### No.24

## 子育て ワンポイント!



## 強み・弱みと子どもの成長

### <スポーツマンシップ?>

スポーツの秋です。「スポーツマンシップに則り、正々堂々……」と言いますが、ピッチャーはバッターの打てなさそうなコースに投げよう

としますし、ストライカーはゴールキーパーの捕れなさそうな所にシュートを打とうとします。相手の弱いところを攻めているのにどうして「正々堂々」と言えるのでしょうか? (笑)



にしようとする。この強みとは、武力、権力、体力、様々な能力など、相手に対して優位なすべての力です。

### <優越感と劣等感>

力を持っていればそれだけで周りからも認められて満足できるはず、優越感が得られるはずなのに、なぜそれでも相手を追い詰めたり、攻撃したりしようとするのでしょうか。優越感は劣等感と表裏一体です。何らかのきっかけで優越感は一気に劣等感に反転します。優越感が強ければ強いほど、反転した時の劣等感は強くなります。どうしてあの人……、どうしてあのチームが……、どうしてあの国が……。そしてそのような気持ちから起こす行為が事件、戦争のような大事となります。

### <弱点狙い?>

弱いところを攻めて相手に勝とうとする。これは生物が生きるための本能的な欲求です。そして負けないようにするために、自分の弱いところを知って強くなろうと努力する。スポーツで言えば、トレーニングを重ねて相手に打ち勝とうとする、弱みを克服して相手に負けないようにする。その過程で、努力の大切さや勝つ喜び、負ける悔しさを知り、自己の成長にもつながることになります。

### <ルールの存在意味>

もちろん、スポーツには必ずルールが存在します。競争は良いけれど、それはずるい方法、これは卑怯なやり方など、しても良いこと悪いことを事前に皆で決めて納得の上で参加します。決着に際して、相手に対する憎しみなどのマイナス感情が、敬意などのプラス感情よりも強くなり過ぎないようにするためです。ルール内であれば、お互いに弱いところを攻めてもどちらも文句を言いません。だからアスリートやプレーヤーに加えて観客も一緒に楽しめます。

### <弱みに付け込む>

しかし、中には皆で決めたルールを守らず、一方的に戦いを始める人がいます。いじめやハラスメント、戦争もこれに当てはまります。勝手にマイ・ルールを主張して自分の強みを使って相手の弱みに付け込み、相手を自分の思い通り

### <認めてもらえる環境作り>

子どもが過剰な優越感や劣等感を持つことなく、良いバランスを保って成長するために親が心がけたい事は何でしょうか。適切なタイミングで褒めて叱ることはもちろんですが、何よりも大切なのは、強みも弱みも全てを認めてもらえる環境作りです。つまり、強くなりなさい、弱みを見せてはなりませんと育てるのではなく、負けた時、辛い思いをして劣等感を感じている時こそ、あえて親が自分の失敗談を語るなどして弱みの共有をすることが、子どもの心を穏やかにして弾力性を育みます。親には弱みをさらけ出しても嫌われない、たとえ叱られても受け止めてもらえるという安心感が健全な心の成長にはとても重要なのです。

### <強みで弱みをカバー>

この世の中は強みと弱みのバランスによって成り立っています。弱みのない人間はいません。強がらず素直になって、強みや弱みを共有することでお互いに助け合うのが望ましい姿ではないでしょうか。相手の弱みに付け込むのではなく、自分の強みを生かして他者の弱みをカバーできるような、そんな人間に子どもには育ってほしいですね。

